

理科教育 実技・理論 研修会 終了報告

テーマ	岩石・化石の教材化 in 北海道博物館	
日時	令和7年8月1日(金)	
会場	北海道博物館 講堂	
講師	圓谷 昂史 氏 成田 敦史 氏 久保見 幸 氏 北海道研究センター 学芸員(地学担当)	
参加者	29名	
研修会の様子		最初に3名の講師の先生方から、北海道博物館の概要、博物館と地域の連携、地層の年代、化石、研究者としての生き方等について幅広く紹介してもらいました。 現地付近の野幌丘陵でも多数の化石が見つかることや、北海道の南北に広がる蝦夷層群では色々な年代や環境で堆積した地層が見られること、植物化石から昔北海道は温暖だったことがわかる等、それぞれの先生方から興味深いお話を聞くことができました。
		次に、講師の先生方が3つのブースに分かれ、参加者が15分ずつ各ブースの教材を見たり体験させてもらったりしました。 主に、圓谷先生はアンモナイトについて、成田先生は地学教材について、久保見先生は岩石について、詳しく紹介してくれました。子どもたちも参加していたので、実物の化石を触ったり、教材を体験させてもらったりする等、大人も子どもも興味深い様子で参加していました。
		最後に、「博物館と学校の連携」の可能性を探る、お悩み相談会を開きました。理科室にあるけれど名前のわからない化石や、採集したけれど活用の仕方が難しい岩石等、参加者がもち込んでくれた物について、講師の先生方から助言をもらったり、一つ一つの化石の名前を覚えてもらったりしました。化石という情報から、どんなことがわかるのかを自由に想像して思考していくことで、子どもたちの関心がさらに高まっていくのではないかとのお話もいただきました。
		終了後、北海道博物館の展示室の見学もさせてもらえる等、サービスもいただきました。事後アンケートでは、今回のように専門家の話を聞く時間があってよかった、想像力を働かせて楽しく自由に考える授業をしたい、学芸員の方々とつながれてよかった、という意見がありました。充実した研修となりました。